

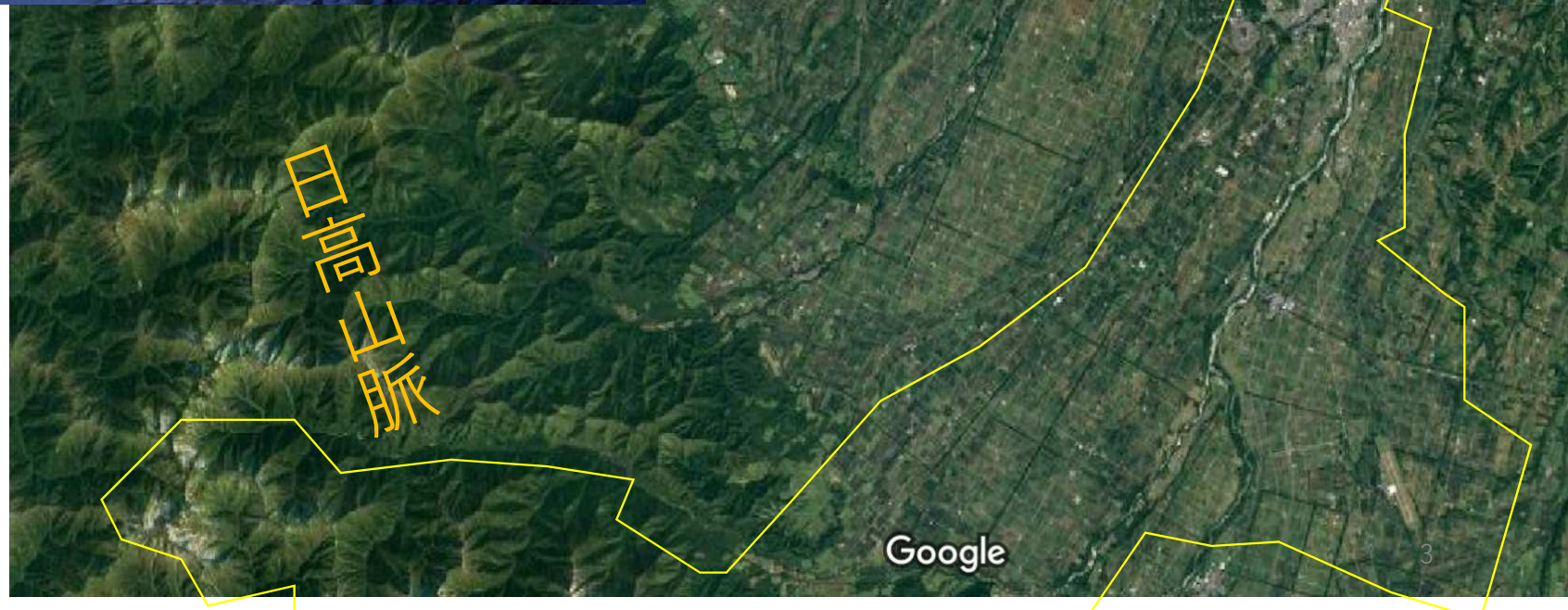
# 帯広少年院跡地 土地利用可能性調査業務委託

## 参考資料

# 帯広市の概要

- 北海道東部の十勝地方のほぼ中央に位置、人口約17万人
- 明治16年（1883年）に開拓が始まり、開拓140年市制施行90年
- 面積は、619.34km<sup>2</sup>と東京23区とほぼ同じであり、南西部は日高山脈が占め、その1割が「日高山脈襟裳国定公園」に指定
- 市街地は、碁盤目状の道路網となっているほか、十勝川と札内川の河川緑地と、市街地を森で包む帯広の森等により形成
- 市域の約6割を占める中央部・北東部の平地は、約半分が農地であり、全国でも有数の大規模経営の畑作・酪農地帯

# 帯広市の位置







市街地（西側から望む）

緑ヶ丘公園周辺

帯広の森

# 畑作・酪農地帯



# フードバレーとかち ～New Stage～

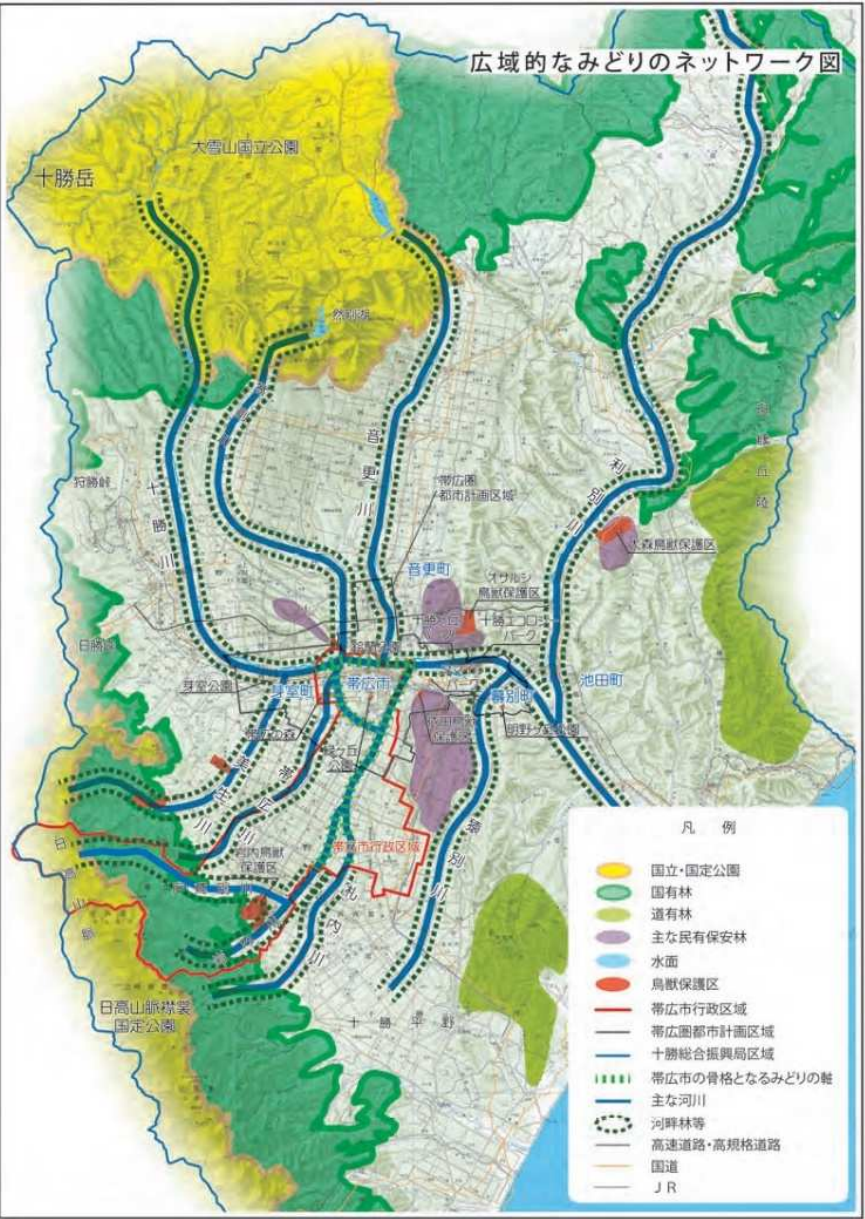
- 帯広市は、食や農など地域の優位性を活かした「フードバレーとかち」を旗印に、人や投資を呼び込むことで、地域の稼ぐ力と活力の向上に取り組んできた。
- 令和4年からは、様々な分野を相互に連関させ、地域や市民の生活に新しい価値を生み出す「New Stage」に発展させることとしている。

# 市長公約「森と公園に暮らすまち」

「帯広の森の次なる利活用や緑ヶ丘公園の価値向上のほか、帯広少年院跡地の方向性の検討などに取り組み、市民の心豊かな暮らしや魅力的で特色ある都市の実現につなげます。」

- 山（国定公園）、川、森、公園が連なり、豊かな生活ができる地域はほかにはないと思ってもらえるよう、これまでと異なる視点でポテンシャルや新たな価値の検討を進める





## みどりの将来像



「第2次帯広市みどりの基本計画」

# 帯広の森

- 面積約406ha、幅約550m、延長約11kmに及ぶ広大な都市公園
- 十勝川・札内川河川緑地とともに、無秩序に開発される市街地の拡大を抑制して、ヨーロッパの大都市郊外にある森に匹敵するような森を作り出す計画
- 昭和50年(1975年)、かつて開拓前の帯広の地に広がっていた「ふるさとの森」を再生し、市民に安らぎと潤いを提供するとともに、人間社会と自然環境の調和を図るという構想のもと造成開始
- 以降30年間に渡り開催された「市民植樹祭」では、延べ15万人の市民の手で、約23万本の木が植えられた。
- 平成3年(1991年)からは、「市民育樹祭」を開催し、15年間で約1万3千人の市民が、間伐等の育樹活動に携わった
- 2019年アジア都市景観賞受賞～帯広の森造成事業、市民参加による都市と農村の交流エリアづくり

# 帯広の森





帯広の森から市街地を望む

# 緑ヶ丘公園周辺エリアの概要

- JR帯広駅から約2km
- 緑ヶ丘公園（約50ha）
- 帯広少年院跡地（約7.5ha）
  - 令和3年3月閉院
  - 市が直接使用する場合は、市に売払うことは可能であるが、民間事業者に転売や市の事業以外に貸し出すこともできない
  - 令和6年度以降、国から市に対して、取得意向の確認が想定されている
  - 市の取得意向がなければ、国が売却の意向
- 用地地域は、第二種中高層住居専用地域
- 周辺は閑静な住宅地





# JR帯広駅と緑ヶ丘公園





# 緑ヶ丘公園の概要①

- 昭和4年(1929年)開設 十勝監獄跡地
  - 昭和33年(1958年) 野草園
  - 昭和38年(1963年) 動物園 (道内で2番目)
  - 昭和39年(1964年) 児童会館
  - 昭和53年(1978年) グリーンパーク (約8ha全面芝生)
    - 「400mベンチ」~かつて世界一長いベンチとして、ギネスブックにも掲載
  - 昭和57年(1982年) 百年記念館
  - 平成3年(1991年) 北海道立帯広美術館
- 公園誕生の功労者である「小泉碧 (こいずみみどり)」にちなんで命名

## 緑ヶ丘公園の概要②

- 桜並木～花見を楽しむことができる
- 野外ステージ～1万人を収容できる芝生広場
- 十勝池～ボートを楽しめる
- 児童遊園～暑い夏に涼を求める子供たちで賑わう
- 多目的広場（旧陸上競技場）～冬期間にはスケートリンク
- 彫刻の径～作家18人による21体の現代彫刻群と園路
- パークゴルフ場（旧市営野球場）やテニスコート





